

重層的内部質保証システムの構築に向けて — A P 事業の導入経緯、概要とその成果 —

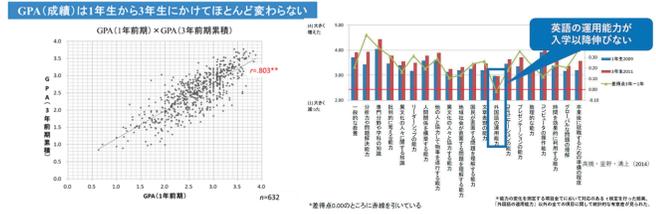
● A P 導入の背景

高等教育開発センターの主な F D 活動

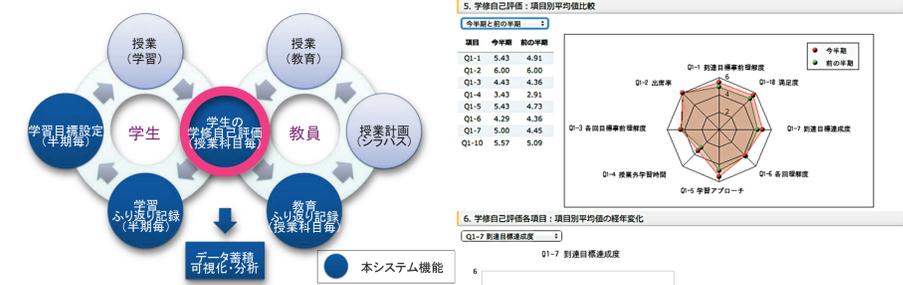
1. 年に 2 - 3 回の F D セミナー・ワークショップの開催
2. G P A データの集約と解析
3. 学生調査の全学的に実施するための体制づくり
4. eポートフォリオの導入

2012年

- ・初年次ゼミナール
- ・Academic English
- ・eポートフォリオの導入



* eポートフォリオの開発と導入



マイクロレベルでの学生の学びを可視化し、履歴として残す。半期毎に学びを振り返る機会を提供する。

府大の F D の課題

- アクティブ・ラーニングを推進するための学習環境が十分でない
- アクティブ・ラーニングに関する教授学習法の支援がカリキュラムレベルで十分でない
- 学生調査を実施してきたものの、学位プログラムレベルで活用されていない
- eポートフォリオの入力率が低い
- 学びの履歴の可視化が十分でない

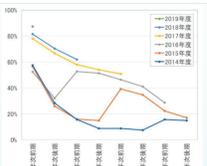
これまでの活動に加えて

- ・学位プログラムレベルでの F D 支援
- ・学習環境の提供
- ・学生調査の学位プログラムレベルでの支援
- ・eポートフォリオの改修と充実



取組み概要: 他大学との連携及び情報共有することで、日本全国で可視化の取組みを推進することを目的として開催した。

- ・基調講演に可視化、評価の専門家を招聘。
- ・玉川大学、長崎大学、関西大学、大阪府立大学と共同で開催。



学修成果の可視化



A P 事業の主な取り組み

取組み概要: 総合リハビリテーション学類の専門科目に反転授業を導入 → A P が進むごとに実施科目を増加し最終年度には 4 5 科目において実施した。

- ・学習環境の構築: タブレット端末の導入、教材開発用スタジオの設置
- ・教授学習法の周知: 反転授業に関するセミナー・ワークショップの開催
- ・実施科目ごとのプレ・ポスト調査の実施、年に 1 度の縦断調査の実施

取組み概要: 知識共有システム (meaqS) システムの開発

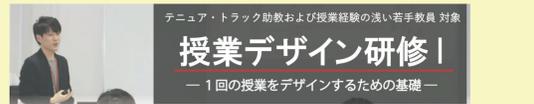
- ・作問を通して学生に深い学習をさせることを目的として開発された。
- ・選択式問題、自由記述式問題を作成可能なシステム
- ・コメント機能を実装しており問題についてのインタラクションを促す。
- ・moodleがあればどの大学でも利用可能

取組み概要: ラーニングコモンズに学習支援を目的としたコモンズ TA を設置

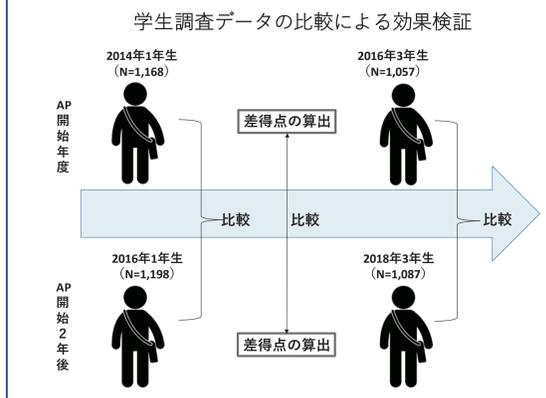
- ・学域 1, 2 年次生を対象とした学修支援と施設利用に関する助言、指導を行った。
- ・コモンズ TA に対する研修と振り返りミーティングの実施
- ・質問箱を設置し、学生が質問しやすい環境を構築
- ・学生の利用頻度、コモンズの活用をデータとして収集
- ・「ICカード認証PCロッカー」を 1 台 (22 間口) 設置

取組み概要: テニユアトラック教員を対象にデザイン研修を実施した。

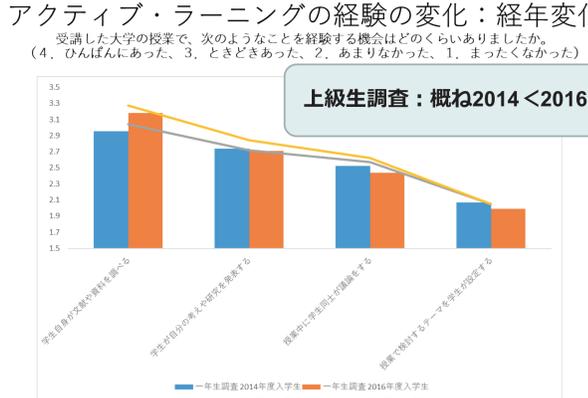
- ・人事研修の一環としてテニユアトラック教員に実施した。
- ・デザイン研修 I: 1 回分の授業をデザインするための基礎
- ・デザイン研修 II: 15 回分の授業をデザインするための基礎



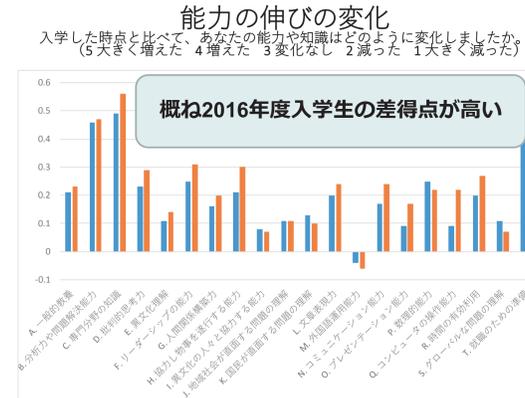
● A P 事業の効果検証: 全学的な波及効果



● アクティブ・ラーニングが推進したか。



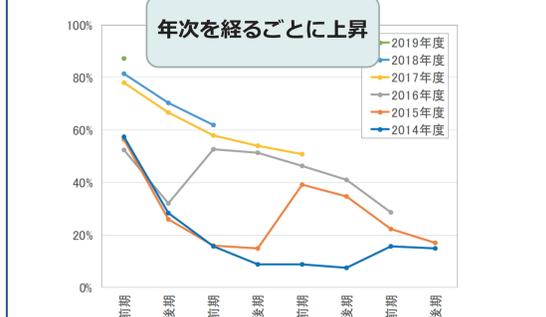
● 学修成果が向上したか。



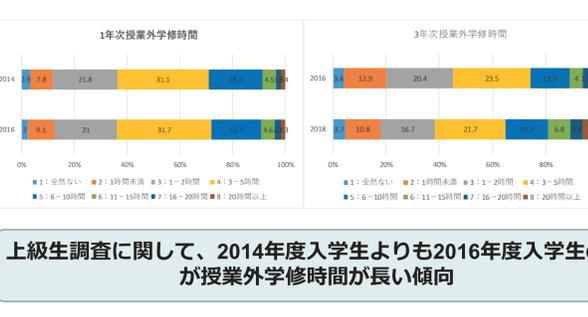
● 教育への満足感が上昇したか。



● eポートフォリオの入力率が向上したか。



● 授業外学修時間が増加向上したか。



アクティブ・ラーニングは推進されたか?

→ 上級生調査のデータを比較した結果から AL の経験の程度、授業外学修時間は増加傾向にある

→ 専門教育の AL が推進された可能性

学修成果が向上したか?

→ 上級生調査の比較から能力の伸びに関する項目は上昇傾向にある

→ AP が開始して以降、学修成果が向上している可能性

eポートフォリオへの入力率は高まったか?

→ 全体的に入力率は向上している

→ AP の成果